KAWANE SUMMER FES @ BIG NATURE 2001 - 2020

- KAWANE SUMMER FES -

@BIG NATURE

～20年の歩み～

P　1　：目次

P　2　：KAWANE夏祭り@BIG NATURE

P 3 - 4 ：起　2001 ～ 2005

P 5 - 6 ：スタッフインタビュー　起・承

P 7 - 8 ：承　2006 ～ 2010

P 9 -10：転　2011 ～ 2015

P11-12：スタッフインタビュー　転・結

P13-14：結　2016 ～ 2020

P １５　：アーティスト インタビュー

P １６　：イベントフォトギャラリー

P １７　：スタッフフォトギャラリー

P １８　：スタッフからの言葉

KAWANE夏祭り

@BIG NATURE

★ Tennouyama Music Festival ★

Since 2001

2000年に旧静岡県榛原郡川根町のとあるスナックにて
川根町の“若者”たちは地元に自分たちが楽しめるイベントが欲しいと言って
自力で人を集めイベントを開催した。

次の年には川根町の天王山公園屋外ステージを会場に
大規模なイベント開催へと踏み切った。

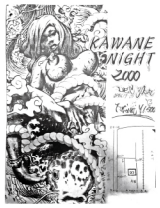
友達。仲間。知り合い。
最初はそんな少人数の集まりから始まった。
各自の得意分野、専門知識を活用し、自分たちだけのステージを作った。

当時から活発的だった“若者”
若者たちに感化され、仲間になっていった“馬鹿者”
イベントをきっかけに川根を好きになったアーティストの“よそ者”

これは
川根が好きで好きで仕方ない。そんな彼らと
彼らのイベントの20年の進化の系譜

2000年 KAWANE NIGHT

2000年12月30日（土）
川根町家山のスナックにて「KAWANE夏祭り@BIG NATURE」の前身となる「KAWANE NIGHT」が開催される。



2001年第１回 実行委員長 松島和徳

2001年8月14日（火）天王山での初開催。
DJ TAKA(1)・DJ RAICHI(1)・DJ HIROMASAⅡ(1)
AKI(1)・MC MICRO(1)・MOCCI4(1)

2002年第２回 実行委員長 松島和徳

2002年8月3日（土）前売1500円／当日2000円
RAICHI(1)・PUTCHIE(1)・いたってふつう(1)
MOCCI4(2)・U-ICHI(1)・HOME MADE 家族(1)
AKI(2)・CHELSEA(1)

2003年第３回 実行委員長 松島和徳

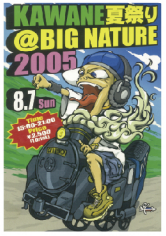
2003年8月2日（土）前売1500円／当日2000円
SECO(1)・PUTCHIE(2)・CMX(1)・MOCCI4(3)
DJ馬兄(1)・ありたごう(1)・PAS TIME TOUR(1)
シーモネーターAND DJ TAKI-SHIT(1)
HOME MADE 家族(2)・ときどきふつう(1)
いたってふつう(2)

2004年第４回 実行委員長 松島和徳

2004年8月8日（日）前売2000円／当日2500円
HOME MADE 家族(3)・KAME&L.N.K(1)・Sound trap(1)
ありたごう(2)・KOCO×FAT32（COOKIN JAX）(1)
MOCCI4×S-KY（COOKIN JAX）(1)・PUTCHIE(3)
TSUYOSHI(1)・LINE CAR(1)・180overs(1)
土木事務職(1)

2005年第５回 実行委員長 松島和徳

2005年8月7日（日）前売2000円／当日2500円
2BACKKA(1)・HILL TOP STUDIO(1)・KAME&L.N.K(2)
PAS TIME TOUR(1)・P.B.maa+MACK-D(1)・LaN-TOO3(1)
YUKI&LION(1)・ブレイクセレクション＋ありたごう(1)
ひとりでできるもん(1)・COCO TEA(1)・A-STICK(1)
RSC(1)・S-KY(2)・MOCCI4(4)・PUTCHIE(4)・TSUYOSHI(2)
LINE CAR(2)・やまちゃんかとちゃん(1)・180overs(2)



まだ川根町内で認知されていなかった頃。

一日中、外で音を流して町内中に響き渡る
このイベントは地域住民からは反対の声も
上がっていた。

そんな若者たちに
救いの手を差し伸べてくれたのは、
同じ地域住民だった。

「若い衆が年に一度楽しんでるだで、
　一日くらい好きにやらしてやってや」

川根町役場、川根町観光協会、川根町交番
そんな多くの大人たちからのこの言葉は
今でも川根町の人たちの中で息衝いている。
若者たちが年に一度のお祭りで楽しくやってる。

それは
川根町にはまだこんなに若い力が残っている。
そう感じさせるイベントの始まりだった。

しかしイベント自体は手探りの中での開催。

当初は自分たちの仲間、友達、知り合い。
そんな身近な人たちのお祭りだった。
スタッフがステージに立って歌を披露する…
なんてこともある。

田舎にアーティストが呼べる。

そんなイベントになるまで
5年の歳月がかかった。

起

承

転

結

起

ライブハウスもなかったまちに、

自分たちのために作ったBIG NATURE。

それが、お客さんが楽しんでくれること自体が僕らの楽しみになり、安全に開催するルールを作り、毎回反省会をするようになった。当時はそれで仲間内でも反発が起こり、孤立したこともあった。みんな楽しみたくて始めたので当然だ。それでも、参加してくれたアーティストがプライベートで1週間川根に遊びにきてくれたり、時には「アーティスト様ではなく、お前らもプライドを持った方がいい」と叱ってくれたりと、次第に応援団が増えていった。それからかな、みんなの意識が変わったのは。ハートがあるアーティストを呼び、僕らも毎年同じではなく、少しでも新しいことをやるようにした。若手には、イベントでいっぱい練習して人生に反映しなさいと伝え、リーダーの役割を渡した。20年続いたのも、ここに若者、馬鹿者、よそ者がいたから。

承

今、思っているのは、イベントを盛り上げることが目的ではなく

地域を盛り上げるために
イベントをやっている。

この限界集落が持続可能なまちになるために、

この20年やってきたことは間違いではなかったと思っている。

転

「憧れのアーティストを川根にも呼びたい！」

そんな想いを実現できたことが、BIG NATUREの転換期になった。最初は仲間だけで飲み屋を貸し切り楽しく騒ぎたい……身内で行うパーティーのような音楽イベントだった。

それが、「こんなアーティストも呼びたいね」と冗談まじりに語っていたことが実現し、実際に呼べるようになり、お客さんも入り、この手作り感のある場を気に入ってくれて継続的に繋がってくれるアーティストも増えていったんだ。僕にとっても憧れだった人を地元の店に連れて行ったり、アーティストとの付き合いの枠を超えて交流できたのはとても嬉しかったこと。

「やっぱり人だよね、ここの良さは」

川根を好きになってくれたアーティストたちの、こんな言葉で僕らも成長できたし、20年の間にまちの中にも外にも大切な仲間が増えた。地元のスタッフとも毎日のようにコミュニケーションをとっていく中で、まちのことがいろいろ見えるようになった。

結

続けていくのは大変だけど、川根の文化になったBIG NATUREは、もっと子供たちが遊びに来られるイベントにもしていきたい。僕も、こうやって

20年の軌跡に関わってこれたことが嬉しいんだ。

BIG NATUREは、僕を育ててくれた場所。

時にはスタッフ同士で意見をぶつけあったり、遅くまで飲み明かしたり、人間力が磨かれるようなことの繰り返し。うちの親父の世代からの腐れ縁ていうのもあるけど、みんな自分のスキルや想いでイベントを良くしていきたい気持ちがあるから、人と人でつながっているんだ。

そんな中で、僕は前夜祭や後夜祭を仕切るのが役割だった。スタッフとアーティストが楽しんで「いつもありがとう！」と言ってくれることが裏方冥利に尽きると感じていたし、大きな自信にもなった。

第10回開催のBIGNATUREでは実行委員長を担った。そのときは、子供が産まれる前だったこともあり、次の世代にどういう姿を見せたいか、どういう経験をさせてあげたいかを自然と意識できた。

僕が、このまちで生まれた誇りを感じるように、

子供たちにも誇れる
イベントにしていきたい、

と。BIGNATUREがこれからも持続可能なイベントになるには、主役は若い人。生まれたこのまちで何かやってみたいという想いが繋がっていくことで、これからも多くの人を笑顔にできる場になっていくんじゃないかな。

大切にしてるのは自然体。

日本全国で開催している音楽フェスの中でも、僕らは手前味噌だけど手作りにしては高いレベルだと思う。ゆるいし、人間味に溢れた場だけど、普通、規模が大きくなるとどうしても運営が機械的になってしまうものだから。

それでも僕らはイベントが大きくなっても

自分たちらしくいたいと思っているんだ。

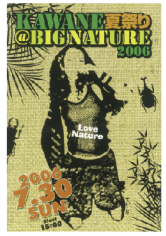
僕自身の役割は、前夜祭のDJや本番の舞台に上がってMCのトークで会場を盛り上げるポジションかな。毎年同じじゃつまらないから、台本として用意した秘伝のノートもだいぶ使い込んだ。仲間の中ではムードメーカーみたいな立ち位置なので、若手が直接意見を言えないようなことを汲み取って先輩たちに伝えたり、来ていただいたお客さんに田舎町の本気を見せて楽しんでもらったり、気持ちの熱いアーティストを呼んで交流したり……その過程を通じて僕も楽しんできた。

BIG NATUREは、人情味のある人たちが適材適所の役割を見つけ、楽しんで、20年続けてきた。だから、これからも

自然体に、自分たちらしくやっていきたい。

起承転結

2006年第６回　実行委員長　松島和徳



2006年７月30日（日）前売2000円／当日3000円
2BACKKA(2)・three NATION(1)・TSUYOSHI(3)
ユナイトバス（1）・HILL TOP STUDIO(2)・LaN-T003(2)
KAME&L.N.K(3)・BiG BEN+masaya(ex.Retro G-Style)(1)
SOUND TRUE(1)・SHIN-LOW(1)・ひとりでできるもん（2）
HABU STYLE(1)・BREAK SELECTION CREW(2)・ハリガネ（1）
cHoCo モッカ（1）・BRAIN HEADS(1)・球舞 -CUBE-(1)

2007年第７回　実行委員長　鈴木泰典

2007年８月５日（日）前売2000円／当日3000円
2BACKKA(3)・COOLON(1)・KAME&L.N.K(4)・ISOPP(1)
ユナイトバス（2）・HILL TOP STUDIO(3)・TSUYOSHI(3)
BiG BEN(2)・SHIN-LOW ft.ZAKI(1)・LaN-T003(3)・MSDK(1)
律DAハイポネックス（1）・ひとりでできるもん（3）
BAEAK SELECTION CREW(3)・球舞 -CUBE-(2)・ハリガネ（2）

2008年第８回　実行委員長　山本博之

2008年８月３日（日）前売2000円／当日3000円
2BACKKA(4)・KAME &L.N.K(5)・TSUYOSHI(4)・MAY'S(1)
ユナイトバス（3）・大神OHGA(1)・TATE(1)・BIGBEN(3)
bless(1)・シクラメン（1）・V-ZONE MIX(1)・mayula(1)
妛～akebi～（1）・GALAXY EXPRESS CREW(1)
LaN-T003(4)・TESTA DI FAMILIA(1)・球舞 -CUBE-(3)
BAEAK SELECTION CREW(4)・HABU STYLE(1)
one or eight(1)・SEP+Rhythmalism(1)・MSDK(2)

2009年第９回　実行委員長　八木茂晴

2009年８月２日（日）前売2000円／当日3000円（雨天）
2BACKKA(5)・CLIFF EDGE(1)・クレンチ＆ブリスタ（1）
双音家（1）・safarii(1)・TSUYOSHI(5)・JANEL(1)
カルテット（1）・MSDK(3)・シクラメン（2）・mayula(2)
スケルト・エイト・バンビーノ（1）・ユナイトバス（4）
TESTA DI FAMILIA(2)・George-K(1)・妛～akebi～（2）
sakura(1)・ハリガネ（3）・LaN-T003(5)・bless(2)
HABU STYLE(2)・SPEED EATER(1)・球舞 -CUBE-(4)

2010年第10回　実行委員長　児玉雅人

2010年８月１日（日）前売2500円／当日3500円
BiG BEN(4)・2BACKKA(6)・Tina(1)・MASH(1)
TSUYOSHI(6)・クレンチ＆ブリスタ（2）・TSUBASA(1)
BAKI(1)・THE SOMETIME DIVE(1)・シクラメン（3）
Mass Alert(1)・双音家（2）・越尾さくら（1）
George-K(2)・球舞 -CUBE-(5)・LaN-T003(6)・PANG(1)

川根に若者向けのイベントができて5年。
川根町内での認知度も増え、
次第に様々なアーティストを呼ぶことも
できるようになった。

アーティストがアーティストを紹介してくれて
「こんな田舎なのにアーティストがたくさん
来るイベントがある」そう言ってお客さんも
来てくれるようになっていった。

川根の若者たちも川根に来てくれた
アーティストたちをもてなそうとイベントの
後夜祭を開催するようになった。

アーティストが泊まれるようコテージを貸切り、
バーベキューをして皆で朝まで楽しむ。
そんなイベントが続いていた。

そんな時、
とあるアーティストからこんな言葉が出た。

「アーティストはアーティスト様じゃないから、
　もてはやしすぎるな。」

その言葉の奥には、川根への愛があった。

ただ演奏して、歌って、披露して。
毎年同じ内容でステージに立つアーティスト
が本当に川根への愛のあるアーティストなの
だろうか？

あの一言がイベントの方向性を大きく変える
ことになる。
川根を愛してくれるアーティストを呼ぼう。

2011年第11回 実行委員長 諸田泰宏

2011年7月31日（日）前売2500円／当日3500円（雨天）
2BACKKA(7)・RSP(1)・Sweet Licious(1)・TSUYOSHI(6)
シクラメン (4)・ViRGO a.k.a.HAMMER(1)・球舞-CUBE-(6)
LaN-T003(7)・Ms brownie(1)・TSUBASA(2)・BiG BEN(5)
George-K(3)・THE SOMETIME DIVE(2)・シュビドゥバ (1)
浜田ブリトニー&兵庫ゆかり (1)・スピリタス☆クール (1)
森一馬 (1)・上田秀一郎 (1)・DJ 1048(1)

2012年第12回 実行委員長 茂川裕行

2012年8月5日（日）前売2500円／当日3500円
FUNKIST(1)・RSP(2)・PANG(2)・mini(1)・TSUYOSHI(7)
ViRGO a.k.a.HAMMER(2)・BIG BEN(6)・球舞-CUBE-(7)
KITE MAMI from ORIENTARHYTHM(1)・micron(1)
Macheri(1)・Good morning george(1)・George-K(4)
森一馬 (2)・北舞連 (1)・スピリタス★クール (2)
シュビドゥバ (2)・DJ 1048(2)

2013年第13回 実行委員長 三浦正博

2013年8月4日（日）前売2500円／当日3500円
ViRGO a.k.a.HAMMER(3)・KG(1)・RSP(3)・TSUYOSHI(8)
Jam9(1)・LaN-T003(8)・球舞-CUBE-(8)・双音家 (3)
SparKing MAMI(2)・シュビドゥバ (3)・Macheri(2)
フォーハンドレッドキングス-400kg-(1)・森一馬 (3)
はぎのゆきえ (1)・モンスター☆パラダイス (1)
CP4N(1)・DJ1048(3)・シクラメン (5)

2014年第14回 実行委員長 茂川将太

2014年8月3日（日）前売3000円／当日4000円
FUNKIST(2)・CLIFF EDGE(1)・TSUYOSHI(9)・PANG(3)
ViRGO a.k.a.HAMMER(4)・MEGAHORN(1)・球舞-CUBE-(9)
ORIENTARHYTHM(3)・Jam9(2)・シュビドゥバ (4)
JAGGER(1)・森一馬 (4)・モンスター☆パラダイス (2)
イーストオーシャンビューティフォー (1)・DJ1048(4)
シクラメン (6)

2015年第15回 実行委員長 茂川将太

2015年8月2日（日）前売3000円／当日4000円
FUNKIST(3)・MAY S(2)・TSUYOSHI(10)・PANG(4)・Jam9(3)
森一馬 (5)・マジカル♡パレード BEACH(1)・Macheri(3)
イーストオーシャンビューティフォー (2)・デッカチャン (1)
シュビドゥバ (5)・etsuco(1)・RED PENCIL TEACHERS(1)
BUCCI・センコウ・コシバ KEN from ET-KING(1)・LaN-T003(9)
球舞-CUBE-(10)・MAMI [ORIENTARHYTHM] (4)・DJ1048(5)

アーティストの一言により
スタッフたちの考えは大きく変わった。

一緒にイベントを作ってくれる。
一緒に川根を愛してくれる。

想いのあるアーティストを自分たちが選べる。
そんなイベントにしていきたい。

川根の良いところを知ってもらおう。

それからはアーティストとの交流を
もっと増やすようになった。

今まで後夜祭だけだったのに、
前夜祭も開催した。

もちろん
イベントの準備と同時並行は簡単じゃない。

それでもアーティストの中には前入りしてまで
少しでも川根に長く滞在する事を選んでくれる
人もあらわれてきた。

川根とアーティスト、
スタッフとアーティストとの距離が近づいた。

ようやく「KAWANE夏祭り@BIG NATURE」の
完成形が見えた。
地元との関わり方。アーティストとの関わり方。

若者たちは一緒にイベントを作るということを
実感し始めていた。

起

承

転

結

起

BIG NATUREを一言で表現すると、居場所かな。

僕にとっては。楽しいから一生懸命になれるし、それが結果的に生まれ育ったまちのためにもなっている。まちづくりのために、が先ではなく、みんなが楽しんで、その結果まちが良くなっていると感じるんだ。
“例年通り”という言葉は好きじゃない。僕の実家が鉄工所なので、仕事で培った技術を活かしステージを作っているけど、毎年新しいことにチャンレンジしたいし、より良くするために時には仲間と言い合うこともあった。

それくらい好きなんだよね、この場所が。

唯一変えなかったのは、天王山のステージのバックに山々が見える舞台を作ること。あの大自然を感じる中で音楽フェスができる開放感が、BIG NATUREの醍醐味でもあるからだ。

そして、地元の人や何回も来てくれる顔を覚えたお客さんが「今年もありがとう」と言ってくれるのが、僕は本当に嬉しい。本気でやっているからこそ伝わるし、こちらも達成感を味わえる。
そんな、

とっておきの居場所を
これからも守っていきたい。

承

転

天王山の上に広がるBIG NATURE会場は第13回目で満員になった。溢れる観客をステージ裏から見た瞬間は、今も目に焼き付いている。ちょうど実行委員長を務めていたときで、心が熱くなったし、身内だけでやっていたイベントから、
少しづつだけど

ようやくここまで来たかと。

僕は年齢的に中心メンバーと若手の「間」くらいの立ち位置。先輩たちがやってきたことをすぐ近くで見ていたし、上と下のつなぎ役としても、常にBIG NATUREのことを考えてきた。川根に来ていただけるアーティストも、本当に熱い人たちが多いし、時には地元の子供たちをステージに上げて一緒に歌ったりと、本当に温かい。親の世代も、最初は近所迷惑なイベントをさせてくれて、ここまで

大きくなるまで見守ってくれたことに感謝している。

結

振り返ってみるといろいろな人に支えられて、ここまできた。
そして、これからも。おじいちゃん、おばあちゃんから、小さい子供たちまで、地元の人がここに遊びに来てくれる、

そんな場にこれからもしていきたい。

中学生の頃は“お客さん”として参加していたBIG NATURE

単なるまちの祭りとは違う、大きく、そして特別なイベントだった。
会場のオープンと同時にお客さんが芝生を埋め尽くす光景を、やがてDJとしてステージに上がり目の前で見られるようになった。それは、もう最高のワクワク感を味わえる瞬間だ。
そして、まちの青年団の団長やイベントの実行委員長として責任感を持ってやり遂げる経験を通じ、先輩たちが起こした

BIG NATUREの凄さや、想いもより体感できた。

スタッフの熱量の上げ方や、アーティストとの関わり方などいろいろなことも肌で感じ学んできた。毎年レベルアップを目指しているBIG NATURE。

次は僕らの世代。

年齢に上も下もないフラットな関係性がある川根の仲間たちと、このイベントを未来へ繋げていく。
その経験を通じて、たくさん仲間と語りあって、信頼関係ができることで、まちも良くなっていく。

良い循環の中に、僕らはいる。

夏の1日、まちに鳴り響くでかい音楽。
子供の頃から、僕らにとって

BIG NATUREは
特別なイベントだった。

野外ライブを盛り上げる地元の先輩たちを見て、素直にカッコいいと感じたし、音楽が好きだったので野外でアーティストの歌が聞けるなんて衝撃だった。
スタッフとして関わるようになってからは、キャパオーバーになるほどお客さんが来たり、台風が来たり、大変なこともあったけど、乗り越える度に大きなやりがいも味わってきた。自分たちで会場を設営し、最高のアーティストを呼び、1000人近いお客さんが入る場を作っていく過程で感じる、

仲間やまちとの一体感はやっぱり最高だ。

そんなBIG NATUREの実行委員長として取り組んだ2020年。
新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントは延期に。残念だったけど、「川根ってスゴいよね」と思えるイベントにしたい気持ちがより強くなった。
このまちも、仲間も大好きだからこそ、

僕らにはもっとできることがある。

起承転結

2016年第16回 実行委員長 河野　建

2016年7月31日（日）前売3000円／当日4000円
球舞 -CUBE-(11)・FUNKIST(4)・HugMee(1)・KG(2)
DJ DEKKA（デッカチャン）(2)・LaN-T003(10)
Lydia（リージャ）(1)・MEGAHORN(2)・森一馬 (5)
PANG(5)・シクラメン (7)・シュビドゥバ (6)
TSUYOSHI(11)・DJ 1048(6)・みっちー (1)

2017年第17回 実行委員長 飛野　岳

2017年7月23日（日）前売3000円／当日4000円
2BACKKA(7)・演歌女子ルピナス組 (1)・FUNKIST(5)
Lydia(2)・MEGAHORN(3)・メロディー・チューバック (1)
Metis(1)・NUBO(1)・PANG(6)・シクラメン (8)
TSUYOSHI(12)・ViRGO a.k.a.HAMMER(5)
球舞 -CUBE-(12)・Kie+Mami(5)・LaN-T003(11)
DJ DEKKA（デッカチャン）(3)・DJ1048(7)

2018年第18回 実行委員長 鈴木俊也

2018年7月29日（日）前売3000円／当日4000円（雨天）
DJ1048(8)・森一馬 (6)・NUBO(2)・MEGAHORN(4)
ViRGO aka HAMMER(6)・LaN-T003(12)・NOBU(1)
球舞 -CUBE-(13)・Mami+Sarry(ORIENTARHYTHM)(6)
Metis(2)・SEAMO(1)・鶴 (1)・FUNKIST(6)

2019年第19回 実行委員長 鈴木俊也

2014年8月3日（日）前売3000円／当日4000円
サンプラザ中野くん (1)・二人目のジャイアン (1)
かせきさいだぁ with 中森泰弘 (1)・FUNKIST(7)
PANG(7)・MEGAHORN(5)・侍 (1)・LaN-T003(13)
ViRGO a.k.a HAMMER(7)・球舞 -CUBE-(14)・MAMI(7)
森一馬 (7)・CP4N(2)・the Firster(1)・DJ1048(9)

2020年　延期 実行委員長 松島和徳

2020年新型コロナウイルス感染症拡大を懸念し、延期を決断。2021年に改めて第20回目を開催する宣言をした。

NEXT
2021年第20回 実行委員長 山田昌紀

イベントは大きくなり、
次第に町をも巻き込んでいった。

イベントに出演したアーティストが島田市公認のプロモーションビデオに出演したり、観光協会や商工会のイベントに出演したりと、アーティストが町と関わるようになっていた。

若いメンバーの台頭、
当初イベントを作った若者は自営業で専門職。

そんな若者たちを支えるように、会社勤めのさらに若い者たちが声を上げ、体を張り、人に見えないところで動いていた。

そんな中、地域の小学校の50周年。
すでに当初の若者たちも40歳を過ぎていた。

今度は若い人たちに繋げよう。
このイベントを、この町を、
持続可能にしていくために。

アーティストたちに声をかけ、
小学生と一緒に企画した。
若者たちが会場を作り、
アーティストたちは子供達を指導して。

「自分たちが楽しめるイベントが欲しい」
と言って20年。
BIGNATUREはイベントという枠を超えて
人と人の繋がりになっていた。

やっている人たちが楽しそうにやっている。
イベントだけでなくこの町で。

球舞-CUBE- Marco.

はじめて BIG NATURE に呼ばれて行った時、**イベントでこのまちを本気で盛り上げようとしているのを感じて、**俺はすごく楽しかった。これからも川根とはつながるのかなって思えた。同時に、何回か参加してこれじゃダメだって、感じたこともあった。アーティストも同じステージを作り上げる立場であるのに、なんというか……持ち上げすぎていて。このままだとアーティストと川根のみんなとの間に差が生まれていくし、どうにかしなきゃ、と。でも、俺も呼ばれている立場だし、考えを受け入れてもらえないなら身を引こうとさえ思って、あえて言ったんだ。今では、アーティストに対してみんなフラットに接しているし、めっちゃたくましくなった。そして、俺らもただ参加するだけじゃなくなっている。川根の中にいて一緒にやっているって思えているから、**ほかのフェスとは比べものにならないんだ。**
BIG NATURE は、1回でも来たら好きになっちゃうし、
これは川根の場所の魅力もあるけど、人間力だと思う。それに、川根小学校 50 周年のイベントの時は、俺が監督をして、アーティストのみんながサポートしてくれて、生まれてきて今までで 1 番『ありがとう』と言われた。自分たちのやってきたことが間違っていなかったと思えた瞬間だ。BIG NATURE は、立ち上げから 20 周年。俺はこれまで関わってない部分もあるけど、川根の仲間とは絆ができた。ありきたりな言葉かもしれないけど

20 年がゴールではなく、もっと先の未来を見て、揺るがず進んでほしい。

ViRGO a.k.a.HAMMER

俺にとって、もうひとつ“地元”ができた。川根との出会いはそんな感じだったかな。メジャーデビューする前にたまたま呼ばれた BIG NATURE は、行ってみたらすごい田舎のフェスで……でも、すごく楽しくて、東京に住んでいたら味わえない全く違う世界観に浸れたんだ。それも、今では大親友になった馬兄（松島和徳）を筆頭に、川根町青年団のみんなとクラスメイトのような感覚で仲良くなったおかげで、イベント後はすぐに川根に遊びに行ったほど。BBQ して、ライブして、今まで感じたことのないような想いが溢れてきて、それからは川根のみんなが目指していることに少しでも力になれたらと思ってやっている。一緒に話し合って呼ぶアーティストを決めたり、「川根温泉に行こう」って曲を勝手につくったり、その流れから「川根音頭」ができたり、MV のロケに川根を使ったり、俺と BIG NATURE がやっていることがとても近くなっていったんだ。今はアーティストではなくプロデュース側にまわっているけど、やっぱりやりたい気持ちもあるから、BIG NATURE では自分を奮い立たせて、人生の中で心臓の 1 個になる感じでやっている。
2020 年。本当なら 20 周年だったけど、コロナで延期になった。だけど、あと 20 年で何ができるかと思えば、まだ折り返し地点。止まったほうがいい時もあるし、成長させた方がいい時もある。

大切な場だからこそ、嘘偽りなくいてほしい。これからも。

FUNKIST 染谷西郷 & 宮田泰治 & ヨシロウ

「すげ〜いいフェスなんだ」球舞のマルコさんから口下手なオファーを受け、初めて行った川根。
それまで俺らがでたフェスとはちょっと違っていて、よく見ると地元の人達が作っていることに気づいたし、

“まち”のみんなの情熱を感じることができた。

俺らは、音楽だけで生きているけど、みんなはフェスだけはなくて。それぞれに仕事があって家庭があって、その中で 1 年に 1 回の BIG NATURE っていう大きな目標があって生きている。全然ちがう生き方だけど、情熱をもって生きている人たちに触れられたのは、とても幸せなこと。フェスへの出演も金額で決めるより、“やりたい”か“やりたくない”かで決めている俺らにとって、BIG NATURE は強い気持ちで参加できる場所。今では川根のみんなが呼んでくれなくなったら俺らの何かが変わってしまっているんだろうなって考えたほうがいいとさえ思っている。
FUNKIST は 2020 年で 20 周年で、結成日にイベントをする予定だった。この日を逃してしまうと二度とない。でも、コロナがあってみんなの安全を考えると、“20 周年をやらなかった”ってする 20 周年に意味があるかもしれない。
BIG NATURE もそうだと思う。みんなが笑って楽しくいられるフェスを開催するって考えると。コロナが終息した後、

日本中が、川根に行きたいって思ってくれるきっかけになればいい。

俺らも川根親善大使として（笑）頑張りたいと思う。

スタッフからみなさんへ

最後に、みなさんに感謝の言葉をお伝えしたい。

正直、自分たちが楽しむことしか頭になかった20年前。

そこからたくさんの人との出会いを通じて、いろいろな想いが混ざり合い、
時には迷惑をかけ、時にはぶつかりあい、時には泣き笑いあい、
いつしか川根というまちが盛り上がるスペシャルなイベントになりました。

もちろん、まだ完成形ではなく、これから、また真価を求め、進化していきます。

今まで携わっていただいた、地域の人たち、協賛や協力などでお世話になった方々、
アーティストのみなさん、イベントに携わるすべての仲間。
その一人ひとりの顔や言葉を思い出しながら、「ありがとう」と心から言いたい。

そして、自分たちスタッフを陰で支えてくれている家族たちへ、
普段は照れくさくてなかなか言葉にできないけど、いつも感謝しています。

自分たちが不在の際、家を守ってくれてありがとう。
家族が支えてくれるから、自分たちもBIG NATUREに全力投球できている。

本来なら一人ひとりに面と向かって言いたいところだけど、
不器用な僕らしいと思って許してください（笑）

これからも、よろしく！
みんなでいい未来を創ろう。

KAWANE夏祭り＠BIG NATURE
スタッフ代表
松島 和徳

KAWANE夏祭り＠BIGNATUTE
20周年記念冊子
発行者：天王山イベント実行委員会
川根町青年団
発　行：2021年３月31日

2020 SHIZUOKA 静岡県文化プログラム

I ♥ KAWANĚ